

観点別特色一覧表

検討の観点		「せいかつ」の特色	参照ページ
内容の範囲・程度	① 学習指導要領に示された目標達成のために適切な内容となっているか。	学習指導要領に示されている生活科の目標が達成できるように、具体的な体験を重視した活動、教材、活動を補助する資料が、内容・範囲ともに適切に示され、生活科の教科目標である「自立の基礎を養う」ことが着実に達成できる内容になっている。	目次 及び各ページ
	② 児童の発達段階に添った内容となっているか。	上巻は主に第1学年、下巻は主に第2学年用に構成され、発達段階に添って児童の興味・関心や行動範囲が広がるように、活動内容や情報量が、徐々に豊かになるように構成されている。	各ページ
内容の選択・扱い	① 具体的な活動や体験を通して、気付きを質的に高めるような学習活動となっているか。	① 身近な人々や社会、自然に直接はたらきかけ、見つける、比べる、たとえるなどの具体的で多様な活動が豊富に例示され、それらを一体的に扱うように工夫されている。 ② 対象への気付きだけでなく、対象と自分とのかかわりや、自分のよさや可能性に気付くことができるように工夫されている。 ③ 活動を補助する資料が充実している。	①② 各ページ ③ p.109～118 p.93～112
	② 地域によさに気付くような活動内容となっているか。	地域の人々にインタビューをしたり、仕事を手伝ったりするなどの体験活動を通して、地域で生活をしたり働いたりしている人々の生き方に触れ、地域に愛着をもつことができるように工夫されている。	p.16～35, 50～69
	③ 自然のすばらしさに気付くような活動内容となっているか。	諸感覚を十分に活用して自然とかかわる活動を取り上げ、手触り、におい、音、光、風など、目に見えない事柄においても意識することができるように工夫されている。	p.26～31, 48～55 等
	④ 科学的なものの見方や考え方の基礎を養うような活動内容となっているか。	身近な自然や物を利用して遊びに使うものを作る活動を通して、比べたり、試したりを繰り返して、自然の面白さや不思議さに気付くことができるように活動が工夫されている。	p.32～43, 70～77 等 p.70～81
	⑤ 自分のよさや可能性に気付くような活動内容となっているか。	身近な人々、社会、自然と繰り返しかかわり、かかわりを深め、それらの特性や性質に気付くことを通して、心身の成長、自分らしさ、自分のよさや可能性に気付くことができるように工夫されている。	各ページ
	⑥ 気付いたことをさまざまな方法で表現し、考えることができるような活動内容となっているか。	① 言葉、絵、動作、劇化などさまざまな方法の表現活動が例示され、気付きの質がもっと高まるように工夫されている。 ② 児童のカード例が大きく、内容が具体的で文字もていねいであるため、児童が、参考として活用しやすい。また、カードの下には、支援の言葉が添えられ、児童のなげない気付きを自覚されたものへと導くように工夫されている。	① p.45, 64, 75 等 p.44～45, 62～63, 100～101 等 ② p.35, 37 等
	⑦ 言語を中心とした伝え合う交流活動が図れる内容となっているか。	① 全単元に渡り、友達や保護者、地域の人など身近な人々との双方向の交流活動が設定されていて、交流を通して、学習が高まり深まっていくように活動が工夫されている。 ② 各単元トビラには、「おしゃべりタイム」が設けられていて、活動の見通しをもつとともに、豊かな言語活動ができるように工夫されている。	① p.14～23, 72～77 等 p.16～33, 50～65 等 ② p.32～33, 48～49 等 p.4～5, 16～17
	⑧ 生命の尊さを実感できるような活動内容となっているか。	栽培や飼育活動が継続的に行われるような構成であり、活動後に生きものの立場に立って振り返る活動があるなど、生命の尊さが感得できる工夫がなされている。	p.32～47, 58～65 p.4～15, 36～47
	⑨ 衛生面、安全面について、適切な行動ができるよう配慮されているか。	① 活動において衛生面や安全面の注意を要するときは、適宜、コラムで注意を喚起するように工夫されている。 ② 地域の人々に守られながら成長をしていることや、安心して安全な生活を送るためにはルールやマナーがあることに気付かせるような活動が設定されている。 ③ 巻末に、安全な行動方法の資料が用意されていて、適切な行動を確実に身につけることができるように配慮されている。	① p.15, 19, 21 等 p.7, 23, 39 等 ② p.5, 24～25 p.30～31 ③ p.116～117 p.108～109
	⑩ 他教科との関連を積極的に図れるよう配慮されているか。特に第1学年当初においては、生活科を中心とした合科的な指導が行えるように工夫されているか。	① 国語科、音楽科、図画工作科を中心に合科的・関連的な指導が図れるように、対象となる教科のマークが付され、指導の効果を高めることができるように十分配慮されている。スタートカリキュラム作成においては、特に効果的である。 ② 上巻の導入では、小学校生活や登下校、保育園・幼稚園との違いについて話し合うページや適応指導で活用できる写真があるなど工夫されている。	① 各ページ ② p.2～13
	⑪ 道徳との関連が配慮されているか。	道徳と関連できる活動には目安のマークがほどこされ、生活科の特質に応じた適切な指導ができるように配慮されている。	p.43, 64, 77, 82 等 p.13, 23, 25, 29 等
	⑫ 人権や福祉への配慮はなされているか。	高齢者、外国人、幼児、障がいのある人などと一緒に活動を行ったり、交流をしたりする活動が設定されていて、同じ学校や地域で、共に生活をしていることに気付き、適切な行動ができるように配慮されている。	p.8～15, 26～27 等 p.29, 30, 90～91 等
	⑬ 男女平等への視点に配慮されているか。	家庭生活や職業において、性別による役割固定の観念を持つことがないように、活動写真やイラストの設定に十分配慮されている。	p.80～87 等 p.16～33, 50～67 等

↓ 表面1より続き

検討の観点	「せいかつ」の特色	参照ページ
組織・配列・構成	① 単元構成は適切になっているか。 学校にいる人々から地域の人々への活動の広がりや、諸感覚を使った自然体験から、自然のもつ力について考える思考の高まりなど、上巻から下巻へと、児童の行動範囲や気付きが広がっていくように配慮されている。	① 上 ② 下 目次
	② 単元配列は工夫されているか。 児童の意識の流れや学習意欲を妨げることがないように適切な単元の配列になっている。また、目次には、活動時期の目安となる「月」が付されている。	① 上 ② 下 目次
	③ 活動展開が見通せるように構成されているか。 小単元が一見開きで構成されていて、児童が自ら活動内容を把握し、学習に取り組むことができるように配慮されている。	① 上 ② 下 各ページ
	④ 児童の活動意欲を喚起し、自発的な学習をうながすように工夫されているか。 ① 見開き上部の色帯上に、以下のような小単元の学習にかかわる情報がまとめられていて、児童の活動意欲を喚起し、自ら目標をもって学習に取り組むことができるように工夫されている。 ・学習のねらいやポイントが具体的な言葉で示されている。 ・巻末の資料へと導くマークがある。 ・巻末の振り返りページへと導くマークがある。 ・学習内容が他教科と関連する場合は、教科の頭文字のマークが付いている。 ② 学習をサポートするキャラクター「ぐんぐん」が、適宜、登場し、活動を呼びかけたり、なにげない気付きから自覚された気付きへと導くように工夫されている。 ③ 各単元のトビラには、クイズや興味深い資料写真があり、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。	① ① 上 ② 下 各ページ ② ① 上 (p.14 等) ③ ① 上 ② 下 各単元とびら
	⑤ 学習したことを生かし、定着するように工夫されているか。 ① 各単元の終末には、3段階で自己評価ができるチェック欄「ふりかえる」があり、単元活動を児童が自ら振り返ることができるように工夫されている。 ② 巻末には、書き込みページ「生活科ノート」が用意されていて、適宜、学習を記録して、後の活動に生かし、確実に学習内容を定着させることができるように工夫されている。	① ① 上 p.23, 29, 43, 55 等 ② 下 p.13, 33, 45, 65 等 ② ① 上 p.119~120 ② 下 p.113~114
	⑥ 生活上必要な習慣や技能を身につけることができるように工夫されているか。 1日のあいさつや言葉を使ったコミュニケーションの方法、発表方法、公共の場でのマナー、安全な行動方法、道具の使い方など、学習や生活に必要な習慣や技能については、上下巻それぞれの巻末の「ぐんぐんポケット」に収録されていて、繰り返し活用して確実に身につけることができるように工夫されている。	① 上 p.109~118 ② 下 p.93~112
	⑦ 中学年以降の社会科や理科へつながるように、学習が系統的になっているか。 「発展的な学習内容」として、適宜、「はってん」コラムが設けられ、中学年以降の社会科や理科へとつながるように工夫されている。	① 上 p.41, 95 ② 下 p.9, 33, 43, 107 表紙裏に「発展的な学習内容」の扱いについて明示
分量	授業時数と内容は適切か。 学習指導要領に示されている内容を欠落させることなく、また詰め込みすぎず、適切なゆとりをもって活動ができるように時数が設定されている。	① 上 ② 下 各ページ
表記・表現	① 文章表現や用語などは適切か。 低学年児童にも伝わるような、具体的で簡潔な言葉で表現されていて適切である。上巻から下巻へと発達段階に応じた配慮が、文字量についてもなされている。	① 上 ② 下 各ページ
	② 表記は適切か。 上巻では、2学期（後期）より第1学年配当漢字（ルビ付）と片仮名、下巻では第2学年配当漢字（ルビ付）で表記されていて、国語科との関連や児童の発達段階に即した扱いとなっている。	① 上 ② 下 各ページ
	③ レイアウトは工夫されているか。 紙面構成については、文章、挿絵、写真などがバランスよく配置されていて、内容がわかりやすいように工夫されている。また、児童の興味・関心を喚起するようなダイナミックなレイアウトが施されている。	① 上 ② 下 各ページ ③ 上 ④ 下 各単元とびら
	④ 文字や指示記号などは、読み取りやすいか。 文字や記号は、読み取りやすいように、写真やイラストに重ならないように配慮されている。重なっている場合は、周りに白いふち取りを入れるなどの工夫があり、色の識別のつきにくい児童にも見やすい色使いとなっていて、十分に配慮されている。	① 上 ② 下 各ページ 表紙裏に、カラーユニバーサルデザインへの配慮を明示
	⑤ 写真やイラストは、適切に表現されているか。 主活動のイラストは、親しみがあるタッチで表現され、図解や動植物などのイラストは、正確でわかりやすいタッチで表現されていて資料性が高い。	① 上 ② 下 各ページ及び ③ 上 p.30~31, 78~79 等 ④ 下 p.18~19 等
印刷・造本	① 印刷は鮮明で適切か。 白色度の高い用紙が使用されていて、文字、写真、イラストが鮮明で正確な色調で印刷されている。また、資源保護・リサイクルの立場から、再生紙や植物油インキが使用されている。	① 上 ② 下 各ページ 表紙裏に再生紙や、植物油インキの使用を明示
	② 造本は低学年児童に適した堅牢さであるか。 表紙には汚れにくい加工が施されており、堅牢な造本である。また、名前の記入欄は、書き込みができるように加工されている。	① 上 ② 下 表紙
	③ 低学年児童に配慮した造本の工夫をされているか。 ① 読み取りやすいように、大きい紙面が採用されている。 ② 体を使った表現の例として、立体印刷加工が施されている。	① AB判 ② 「レンチキュラー」 (① p.45)